

フィギュアスケート

スペシャルオリンピックス(SO)のフィギュアスケート公式スポーツルールは、全てのスペシャルオリンピックスフィギュアスケート競技において適用される。国際的なスポーツ組織として、スペシャルオリンピックスは国際スケート連盟 (ISU) のルール (参照：<http://www.isu.org>) を基に、スペシャルオリンピックス公式スポーツルールを定めた。スペシャルオリンピックスのフィギュアスケート公式スポーツルールおよびスポーツルール第 I 章 総則と矛盾する場合以外は ISU あるいは日本スケート連盟 (JSF) のルールが採用される。矛盾する場合は、スペシャルオリンピックスのフィギュアスケート公式スポーツルールが適用される。

参考:スペシャルオリンピックス スポーツルール第 I 章 総則

http://www.son.or.jp/pdf/athlete/program/rule/general_rules.pdf

行動規範、トレーニング基準、医療および安全面の必要条件、ディビジョニング、表彰、上位レベルの競技会への進出条件とユニファイドスポーツを参照してください。

セクション A – 公式種目

以下はスペシャルオリンピックスにおける公式種目の一覧である。

これらの種目は、あらゆる能力のアスリートに競技する機会を提供することを目的としている。各国プログラムは提供する種目、および必要に応じて、それら種目の運営方針を決定することができる。コーチは、それぞれのアスリートの技術と興味に応じて、適切なトレーニングの提供と種目を選択することに責任がある。

スペシャルオリンピックスでは、シングルス、ペアスケーティング、アイスダンスの 3 種目を公式種目とする。

1. 技能競技 (世界大会の種目ではなく、ローカルの競技会とプログラムレベル競技会用)
2. シングルス (シングルスレベル 1-6)
3. ペアスケーティング (ペアレベル 1-3)
4. アイスダンス (アイスダンスレベル 1-6)
5. ユニファイドスポーツ®ペアスケーティング
 - a. 男性ユニファイドスポーツ®パートナーとアスリート
 - b. 女性ユニファイドスポーツ®パートナーとアスリート
6. ユニファイドスポーツ®アイスダンス

セクション B – 競技設備

1. 最小でも 26m×56m の長方形リンクが必要である。
2. アスリートのために暖をとる設備と更衣設備が用意されなければならない。

セクション C—用具

1. 伴奏音楽のための音響設備がなくてはならない。
2. 競技用衣装とスケート靴
 - a. スペシャルオリンピックスの競技会で使用されるフィギュアスケートのブレードは両エッジ間の幅が一定で、断面形状が平面ないし凸面状をなすように研磨されたものでなければならない。しかしながらブレードの断面形状をわずかに先細にしたり、テーパをつけてたり、幅を狭めたりすることは認められている。
 - b. スペシャルオリンピックスのシングルスとペアの競技会において、競技者の衣装は節度と品位のあるものでスポーツの競技会に適したものでなければならない。—けばけばしいものや芝居じみたデザインでないこと。ただし、衣装は選んだ音楽の特徴を反映するものであってよい。
 - 1) 衣装はスポーツ競技用として過度に肌を出したように見えるものであってはならない。
 - 2) 男性はズボンを着用しなければならず、タイツは許可されていない。
 - 3) アクセサリーや小道具を用いたりすることは許可されていない。
 - 4) 上記の要件にふさわしくない衣装の着用に対しては、1.0 が必ず減点される。
 - c. スペシャルオリンピックスのアイスダンスおよび、ユニファイドスポーツ®アイスダンスの競技会では競技者の衣装は節度と品位のあるものでスポーツ競技会に適したものでなければならない。—けばけばしいものや芝居じみたデザインでないこと。ただし、衣装は選んだ音楽の特徴を反映するものであってよい。
 - 1) 女性はスカートもしくはドレスを着用しなければならない。女性のドレスはスポーツ競技用として過度に肌を出したように見えるものであってはならない。
 - 2) 男性は長ズボンを着用しなければならない。タイツは許可されておらず、男性の衣装は袖なしでないものが良い。
 - 3) アクセサリーや小道具を用いたりすることは許可されていない。
 - 4) コスチュームの飾りつけは、取り外せないものでなければならない。

セクション D—役員

1. 競技役員
 - a. レフェリー
 - b. アシスタントレフェリー
 - c. 主任得点記録係

2. ジャッジ

- a. 最低3人、最高9人のジャッジ、得点記録係、および記録係助手が必要である。
いかなる場合でもジャッジの人数は奇数でなければならない。

セクション E—競技ルール

1. シングルス競技

a. レベル I

- 1) 参加資格：レベル I 競技に参加するスケーターはバッジ 1~5 が出来なければならない。ただしそれ以上のバッジは出来ないこととする。

2) レベル I コンパルソリーエレメントグループ

スケーターは次のエレメントを個別に滑らなければならない。ひとり前のスケーターが全てのエレメントを滑り終えた後、次のスケーターが演技を開始する。スケーターはエレメントを 2 回演技する機会が与えられる。

- a) 10m のフォアのスウィズル
- b) 10m のバックのスウィズル
- c) フォアのイの字ストップ（左足または右足）

3) レベル I フリースタイルプログラム

- a) スケーターはリンク上のどこからでも演技を開始できる。
- b) スケーターが滑り始めた時点でジャッジと計時が開始される。
- c) これは、初心者のためのフリースタイルのプログラムであり、バランス、滑走動作の開始の出来映えに重点を置き、バッジ 1~5 から選択されたエレメントを含むバランスの良いプログラムである。なお、エレメントの選択は以下のもの、および1つまでのジャンプ（その場もしくは動きながら両足ジャンプ）に限られる。

- 前へ歩く、またはストローク
- バックのウィグルあるいはバック歩行
- フォアのスウィズル
- バックのスウィズル
- フォアの両足滑走
- バックの両足滑走
- 膝を曲げてフォア滑走
- 膝を曲げてバック滑走
- 片足で身長以上の距離のフォア滑走をする（左右）

- その場もしくは動きながら両足ジャンプ
- フォアのイの字ストップ（左足あるいは右足）
- 両足フォア滑走で左右にカーブしながら滑る
- その場でフォアからバックへの両足ターン

- d) エレメントの技はどの順序で演じていても良い。
- e) スケーターは決められた数の技を行う必要はないが、得点は演技の質と内容に基づいて判定される。
- f) プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じられなければならない（ボーカルは不可）。ボーカルの使用に対しては 0.2 点が必ず減点される。
- g) プログラムは 60±10 秒の制限時間を越えてはならない。
- h) バッジ 6 以上のエレメントをプログラムに含んではならない。違反した場合は、追加した各々のエレメントに対し 0.2 点が必ず減点される。

b. レベル II

- 1) 参加資格：レベル II 競技に参加するスケーターはバッジ 1～9 が出来なければならない。ただしそれ以上のバッジは出来ないこととする。

2) レベル II コンパルソリーエレメントグループ

スケーターは最初の 8 つ（以下の a～h）のエレメントを連続して滑らなければならない。スケーターはエレメントを 2 回演技する機会が与えられる。最初の 8 つのエレメントを滑り終えた後、スケーターは 9 つ目（i）のエレメントを演技する。

- a) スケーターはリンクのいずれかの端（または赤色のゴールライン上）から演技を開始する。
- b) スケーターは審判から指示があった時に演技を開始する。
- c) スケーターは最初の青色ラインまで、あるいはリンクの長さの約 1/3 の地点までフォアストロークで滑走する。（スウィズルは禁止。スウィズルに対しては 0.2 点が必ず減点される。）
- d) スケーターは、最初の青色ライン（あるいは、リンクの長さの約 1/3 地点）で、フォアからバックへ両足ターンを行う。
- e) ターンのあと、2 番目の青色ライン（あるいはリンクの長さの 2/3 地点）までバックストロークで滑走する。（スウィズルは禁止。スウィズルに対しては 0.2 点が必ず減点される。）
- f) 2 番目の青色ライン（あるいは、リンクの長さの約 2/3 地点）で、スケーターはバックからフォアへ両足ターンを行う。
- g) ターンのあと、スケーターはフィニッシュライン（リンクの端の赤色のゴ

ールライン) までフォアストロークで滑走する。

- h) スケーターはフィニッシュライン (赤色ライン) で T 字ストップを行う。
- i) レベル II コンパルソリーエレメントグループ: ホッケーサークルの周りをフォアクロスでフィギュアエイトのパターンで滑走する。右回りおよび左回り (間は止まらずに) で、1 つのサークルにつき最低 5 回のクロスを行う。

3) レベル II フリースタイルプログラム

- a) スケーターはリンク上のどこからでも演技を開始できる。
- b) スケーターが滑り始めた時点でジャッジと計時が開始される。
- c) これは、上級初心者のためのフリースタイルのプログラムであり、滑走とターンに重点を置き、バッジ 1~9 から選択されたエレメントを含むバランスの良いプログラムである。なお、エレメントの選択はレベル I で列挙されているエレメントおよび以下のもの、2 つまでのシングルジャンプ (その場もしくは動きながら両足ジャンプ、バニーホップ) に限られる。

- サークル上で連続したフォアの片足スウィズル (左右とも)
- サークル上で連続したバックの片足スウィズル (左右とも)
- 片足で身長以上の距離をバック滑走する (左右とも)
- バニーホップ
- 左右どちらかで T 字ストップ
- バックストローク
- フォア滑走から両足ターンをしてバック滑走する
- バック滑走から両足ターンをしてフォア滑走する
- フォアのピボットターン
- 両足スピン
- サークル上でフォアの両足ターン (左右とも)
- フォアアウトスリーターン (左右とも)
- 連続フォアクロス (左右とも)
- アウトエッジでフォア滑走
- インエッジでフォア滑走
- フォアランジまたはシュートザダック (任意の深さで)

- d) エレメントの技はどの順序で演じていても良い。
- e) スケーターは決められた数の技を行う必要はないが、得点は演技の質と内容に基づいて判定される。
- f) プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じられなければならない

(ボーカルは不可)。ボーカルの使用に対しては 0.2 点が必ず減点される。

- g) プログラムは 1 分 30 秒±10 秒の制限時間を越えてはならない。
- h) バッジ 10 以上のエレメントをプログラムに含んではならない。違反した場合は、追加した各々のエレメントに対し 0.2 点が必ず減点される。

c. レベルⅢ

- 1) 参加資格：レベルⅢ競技に参加するスケーターはバッジ 1～12 が出来なければならない。ただしそれ以上のバッジは出来ないこととする。

2) レベルⅢコンパルソリーエレメントグループ

スケーターは次のエレメントを個別に滑らなければならない。スケーターはエレメントを 2 回演技する機会が与えられる。その際、ジャッジから最も高い総合点を得た演技がそのスケーターの最終得点として採用され、もう片方の採用されなかった得点は考慮されないものとする。

- a) スケーターは審判が指示した地点からエレメントの演技を開始する。
- b) スケーターは審判から指示があった時に演技を開始する。
- c) スケーターは次の演技を行わなければならない。
 - i. アウトエッジ、インエッジを使って前進する。左右の足を正しく交互に入れ替えながら短いストロークで滑る。リンクの横幅を右足からスタートして左足に替え、連続して 4 エッジ分（アウトエッジ、およびインエッジ）滑る。
 - ii. スケーターは右足フォアアウトスリーターンと左足フォアアウトスリーターンを行わなければならない。この技は 2 回行わなければならない。スケーターはひと蹴りでアプローチし、各スリーターンを実施し終えること。スリーターンを行う時のスケートは、各スリーターンの前、スリーターン中、またスリーターン後に 1 m しか滑ってはいけない。
 - iii. スケーターは右のフォアインエッジから左のバックインエッジのオープンモホークを行う。フリーレグはターンの前後で伸ばしてなければならない。

3) レベルⅢフリースタイルプログラム

- a) スケーターはリンク上のどこからでも演技を開始できる。
- b) スケーターが滑り始めた時点でジャッジと計時が開始される。
- c) これは、中級者のためのフリースタイルのプログラムであり、フローとキャリンク（身のこなし）また、やや上級スキルレベルにも重点を置き、バッジ 1～12 から選択されたエレメントを含むバランスの良いプログラムである。なお、エレメントの選択はレベル I とレベル II で列挙されているエ

レメントおよび以下のもの、3つまでのシングルジャンプ（その場もしくは動きながら両足ジャンプ、バニーホップ、スリージャンプ、サルコウジャンプ、トゥループジャンプ）に限られる。

- スリージャンプ
- フォアスパイラル
- バックスパイラル
- 片足スピンのアップライトポジションに限り、最低3回転
- 連続バッククロス（左右とも）
- フォアアウトセミサークル
- フォアインセミサークル
- バックアウトセミサークル
- バックインセミサークル
- フォアインスリーターン（左右とも）
- フォアインサイドモホーク
- シンプルフットワーク（モホークステップシークエンス、ワルツスリーステップシークエンス等）
- フィールドムーヴズ
- サルコウジャンプ
- トゥループジャンプ
- ホッケーストップ

- d) エレメントの技はどの順序で演じてもいい。
- e) スケーターは決められた数の技を行う必要はないが、得点は演技の質と内容に基づいて判定される。
- f) プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じられなければならない（ボーカルは不可）。ボーカルの使用に対しては0.2点が必ず減点される。
- g) プログラムは2分±10秒の制限時間を越えてはならない。
- h) 片足スピン以上のいかなるスピン、また上記以外のいかなるジャンプを行った場合は、追加した各々のエレメントに対し0.2点が必ず減点される。

d. レベルIV

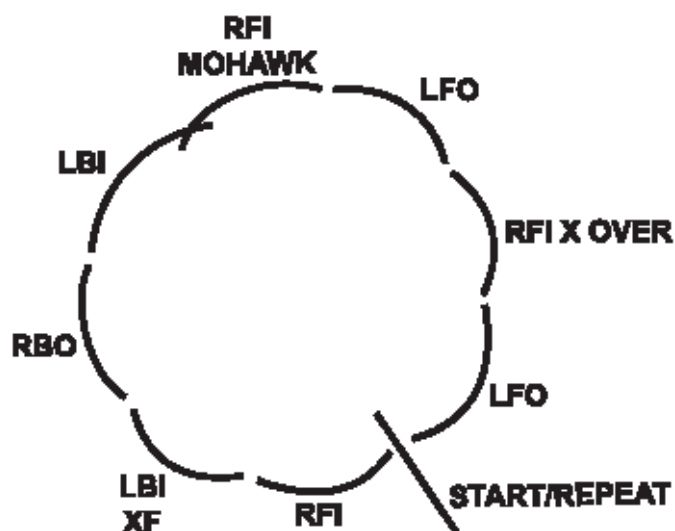
1) レベルIVコンパルソリーエレメントグループ

- a) アウトエッジ、インエッジを使ってバック滑走する。左右の足を正しく交互に入れ替えながら短いストロークで滑る。リンクの横幅を右足からスタートして左足に替え、連続して4エッジ分（アウトエッジ、およびインエッジ）滑る。

b) 次のエレメントはサークル上で連続して演技されなければならない。

- ・レフト・フォア・アウト (LFO)
- ・ライト・フォア・イン クロス (RFI×OVER)
- ・レフト・フォア・アウト
- ・ライト・フォア・イン モホーク (RFI MOHAWK)
- ・レフト・バック・イン (LBI)
- ・ライト・バック・アウト (RBO)
- ・レフト・バック・イン クロス (LBI×F)
- ・ライト・フォア・イン (RFI)

ステップシーケンスは2回繰り返す、左足スタートの左回り（下図）と右足スタートの右回りの両方の演技をしなければならない。

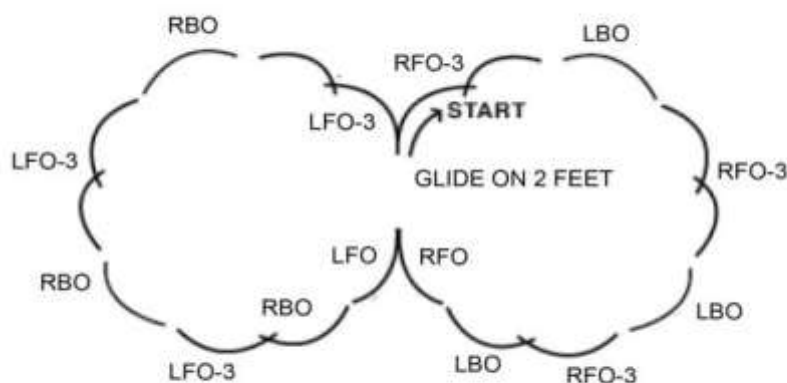


c) ワルツスリーステップシーケンス：フィギュアエイトのコンパルソリーで2歩の助走を付け加えてもよい。

- ライト・フォア・アウト スリーターン (RFO-3)
- レフト・バック・アウト (LBO)
- ライト・フォア・アウト スリーターン
- レフト・バック・アウト
- ライト・フォア・アウト スリーターン
- レフト・バック・アウト
- ライト・フォア・アウト

- 両足滑走でスタート位置に戻る
- レフト・フォア・アウト スリーターン (LFO-3)
- ライト・バック・アウト
- レフト・フォア・アウト スリーターン
- ライト・バック・アウト
- レフト・フォア・アウト スリーターン
- ライト・バック・アウト
- レフト・フォア・アウト
- 両足滑走でスタート位置に戻る

最低3回、1つのサークルにつきスリーターン/バックエッジのシーケンスを行う。



2) レベルIVフリースタイルプログラム

- スケーターはリンク上のどこからでも演技を開始できる。
- スケーターが滑り始めた時点でジャッジと計時が開始される。
- これは、さらに上級者のためのフリースタイルのプログラムであり、スピンとジャンプとフットワークに重点を置き、フリースケーティング（自由演技）のエレメントを含むバランスの良いプログラムである。なお、エレメントの選択はレベルⅠ、レベルⅡ、レベルⅢで列挙されているエレメントおよび以下のもの、4つまでのハーフローテーション付きのシングルジャンプ、1つのコンビネーションジャンプ(サルコウ/トウループ)、2つまでのスピンに限られる。

- サルコウジャンプ

- トウループジャンプ
- ループジャンプ
- 半回転ジャンプ
- 2種類以内のポジションでの片足スピン – 足換え無し
- アップライトバックスピン – どの姿勢からでも開始できる。
- コンビネーション サルコウジャンプ/トウループジャンプ

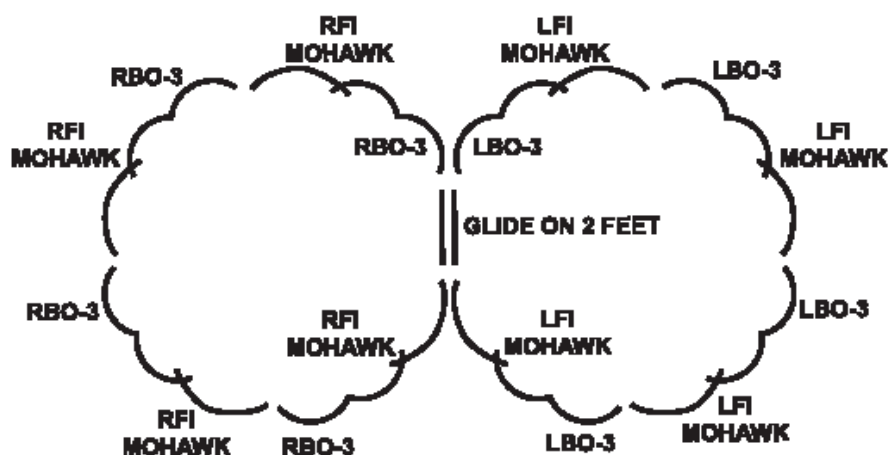
- d) いかなるエレメントについても、追加した各々のエレメントに対し 0.2 点が必ず減点される。(例：1 回転ジャンプや上記以外の足換えスピン)
- e) プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じられなければならない(ボーカルは不可)。ボーカルの使用に対しては 0.2 点が必ず減点される。
- f) プログラムは 2 分±10 秒の制限時間を越えてはならない。

e. レベルV

1) レベルVコンパルソリーエレメントグループ

エレメント a)と b)は 8 の字状に演技する。

- a) 両足滑走からレフト・バック・アウト スリーターン
→レフト・フォア・インモホークを繰り返し、8 の字の最初の半分を滑り終える。
- b) 両足滑走からライト・バック・アウト スリーターン
→ライト・フォア・インモホークを繰り返し、8 の字の残り半分を滑り終える。



エレメント c)と d)が連続してリンクの長さに沿って行われる。また、エレメント開始時の助走ステップは最高 4 回行うことができる。

- c) ライト・フォア・アウトからインヘッジチェンジ (RFOI-CE)

→レフト・フォア・インスリーターン

d) ライト・フォア・インからアウトへエッジチェンジ (RFIO-CE)

→レフト・フォア・アウトスリーターン

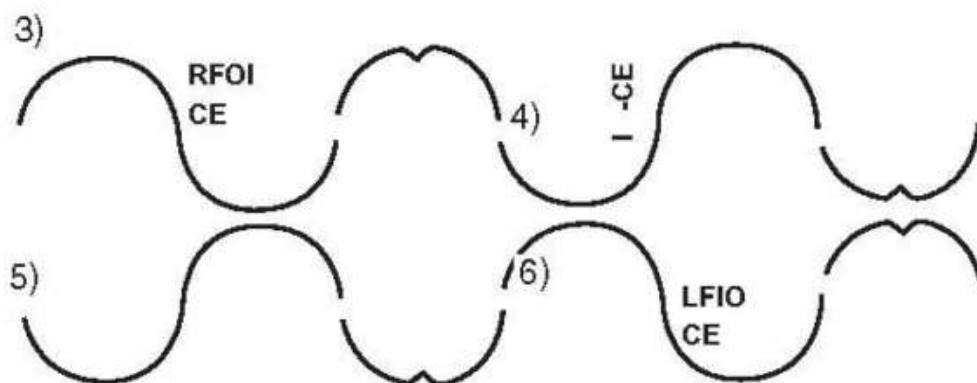
エレメント e) と f) が連続してリンクの長さに沿って行われる。また、エレメント開始時の助走ステップは最高 4 回行うことができる。

e) レフト・フォア・アウトからインへエッジチェンジ (LFIO-CE)

→ライト・フォア・イン スリーターン

f) レフト・フォア・インからアウトへエッジチェンジ (LFOI-CE)

→ライト・フォア・アウト スリーターン



2) レベルVフリースタイルルーティン

- スケーターはリンク上のどこからでも演技を開始できる。
- スケーターが滑り始めた時点でジャッジと計時が開始される。
- これは上級のフリースタイルプログラムである。スピン、コンビネーションスピン、上級ジャンプ、コンビネーションジャンプ、フットワークに重点を置き、フリースケATING（自由演技）のエレメントを含むバランスの良いプログラムである。なお、エレメントの選択はレベル I、レベル II、レベル III、レベル IV、レベル V および以下に列挙されているエレメント、5 つまでのシングルジャンプと 2 つまでのコンビネーションジャンプ（サルコウ+トウループおよびワルツジャンプ+トウループ）に限られる。なお、ジャンプはフルローテーション付きで行って良い。

- 1 回転ジャンプ
- 1 回転コンビネーションジャンプ
- スピンの足換え
- スピンの姿勢変更

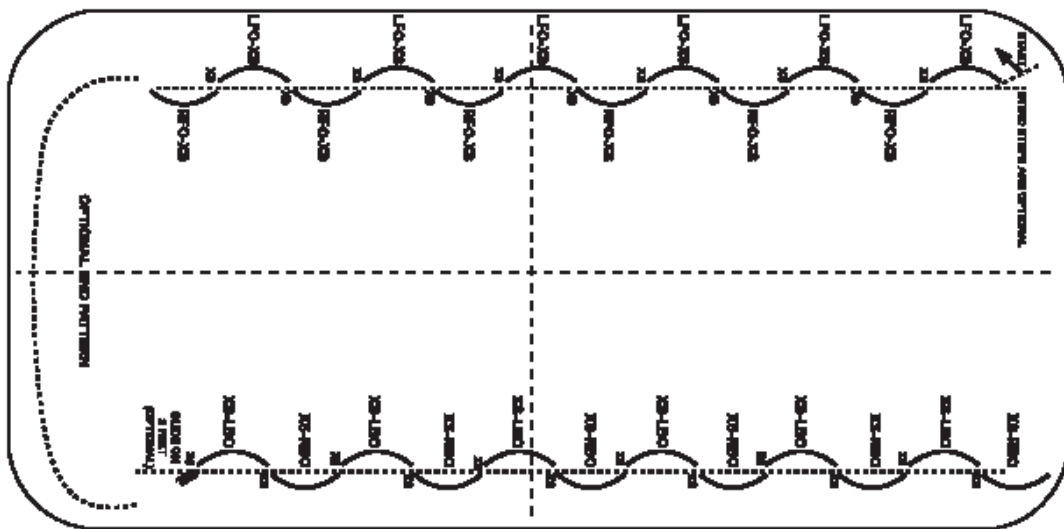
- d) いくつものエレメントについても、追加した各々のエレメント（アクセル、2回転以上のジャンプ、フライングスピンなど）に対し0.2点が必ず減点される。
- e) プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じられなければならない（ボーカルは不可）。ボーカルの使用に対しては0.2点が必ず減点される。
- f) プログラムは2分30秒±10秒の制限時間を越えてはならない。

f. レベルVI

1) レベルVIコンパルソリーエレメントグループ

- a) リンクの長い方の端から端までフォア・クロス・ストロークで滑る。そして、リンクの長い方の端から端までバック・クロス・ストロークで滑る。エレメント開始時の助走ステップは任意とし、フォア・クロス・ストロークとバック・クロス・ストロークの間に任意のエンドパターンを加えても良い。

フォア・バック・クロス・ストローク



b) ブラケット

- i. ライト・フォア・アウト・ブラケットを行った後、バックで蹴り替え、レフト・バック・イン・ブラケットでストップする。（クロージングサークル）。さらに、レフト・フォア・アウト・ブラケットを行った後、バックで蹴り替え、ライト・バック・イン・ブラケットでストップする。（クロージングアップサークル）
- ii. ライト・フォア・イン・ブラケットを行った後、バックで蹴り替えレ

フト・バック・アウト・ブラケットでストップする。(クロージングアップサークル)。さらに、レフト・フォア・イン・ブラケットを行った後、バックで蹴り替え、ライト・バック・アウト・ブラケットでストップする。(クロージングアップサークル)

FIGURE 1

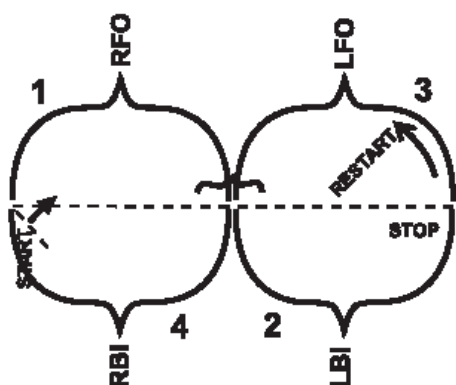
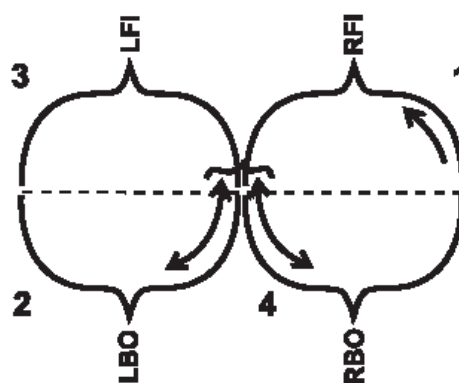


FIGURE 2



2) レベルVIフリースタイルプログラム :

- a) スケーターはリンク上のどこからでも演技を開始できる。
- b) スケーターが滑り始めた時点でジャッジと計時が開始される。
- c) これは最も上級のフリースタイルプログラムである。レベル I、レベル II、レベル III、レベル IV、レベル V および以下に列挙されているエレメント (これらはすべて行って良い) を含む、バランスの良いプログラムである。

- スピンの足換え
- スピンの姿勢変更
- フライングスピン
- アクセル
- 2 回転ジャンプ
- コンビネーションジャンプ

- d) プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じられなければならない。(ボーカルは不可)。ボーカルの使用に対しては 0.2 点が必ず減点される。
- e) プログラムは 3 分±10 秒の制限時間を越えてはならない。
- f) プログラムは、以下のものを必ず含まなければならない。

- ストレートライン (直線)、サーキュラー (円形)、またはサーペントライン (蛇行した) フットワークシーケンス

- 最低3回の足換えがあるスパイラルシークエンス

2. ペアスケートティング

a. レベル I ペア (これは SO ペアスケーターとユニファイドスポーツ®ペアスケーターに適用される)

1) 参加資格: この種目に参加するスケーターは少なくともレベル II のシングルスケーターである必要があり、またレベル IV 以上のシングルスケーターであってはならない。両スケーターのシングルレベルは同一でなくてもよいが、シングルレベル II、III の範囲でなくてはならない。チームはスペシャルオリンピックスのアスリート男性 1 名、女性 1 名または男性 2 名、女性 2 名から構成される。

2) レベル I ペアコンパルソリーエレメントグループ

- a) スケーターは審判が指示した地点から演技を開始する。
- b) スケーターは審判から指示があった時に演技を開始する。
- c) スケーターには音楽なしで最長 1 分 30 秒、次のスキルを演技する時間がある。
- d) 求められるスキル: リンク端のホッケーゴールクリーズより開始し、カップルは手を取り合ってリンク中央へ前進ストロークする。そして、フォアクロスでフィギュアエイトのコンパルソリーを滑り (1 シークエンスの右回り、および左回り)、続けてリンクのもう一方の端へフォアストロークし、ゴールクリーズで T 字ストップし、並んで両足スピンをを行う。
- e) スケーターはチーム (2 人) で各コンパルソリーのエレメントを演じなければならない。スケーターはこれらのエレメントを連続した動きとして音楽なしで演じなければならない。
- f) 各チーム 2 回演技することが出来る。
- g) ジャッジから最も高い合計得点を集めた時の演技が、スケーターの最終スコアに考慮され、その他の演技は考慮されないものとする。

3) レベル I ペアフリースタイルプログラム

- a) プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じられなければならない (ボーカルは不可)。ボーカルの使用に対しては 0.2 点が必ず減点される。
- b) 各チームは 1 分±10 秒以内のプログラムを演技する。
- c) これは初心者ペアのためのプログラムである。
- d) 両足スピン以外のいかなるスピン、そしてバニーホップ以外のいかなるジャンプについても、追加した各々のエレメントに対し 0.2 点が必ず減点される。

- e) エレメントの技はどの順序で演じても良い。
f) このプログラムは次の 10 のエレメントのうち 8 つを行わなければならない。

- 2 人手をつないでユニゾンでフォアストローク
- 2 人手をつないでユニゾンでフォアクロス (右回り)
- 2 人手をつないで調和してフォアクロス (左回り)
- 2 人同調して両足スピン
- サイドバイサイドでフォアピボットしながらスピンする (任意の位置)
- 任意の位置にて 2 人でスパイラル
- 2 人手をつないで同調してバニーホップ
- 直線で連続ステップ
- 2 人手をつないでバックストローク
- ストレートリフト (男性の肩より上がってはならない)

- g) 高いレベルのエレメントを演技した場合は 0.2 点が評価より必ず減点となる。

b. レベル II ペア

- 1) 参加資格：この種目に参加するスケーターは少なくともレベル IV のシングルスケーターでなければいけないが、レベル VI を上回るシングルスケーターである必要はない。両スケーターのシングルレベルは同一でなくてもよいが、シングルレベル IV, V, VI の範囲でなくてはならない。チームはスペシャルオリンピックスのアスリート男性 1 名、女性 1 名または男性 2 名、女性 2 名から構成される。

2) レベル II コンパルソリーエレメントグループ

- a) スケーターはリンク上のどこからでも演技を開始できる。
b) スケーターは審判から指示があった時に演技を開始する。
c) スケーターは最大 1 分 30 秒、音楽なしで次のスキルを演技する時間がある。
d) 求められるスキル：フィギュアエイトコンパルソリーでバッククロス (1 シークエンスの右回り、および 1 シークエンス左回り)、サイドバイサイドでスリージャンプ、ペアスピン—好みのポジションで最低 2 回転、ストレートライン (直線)、サーキュラー (円形)、またはサーペンタイン (蛇行した) ステップシークエンス (コンパルソリーの選択は自由)。

- e) このスキルはどの順序で行ってもよい。しかし追加スキルを加えることはできない。
- f) どの追加エレメントに対しても 0.2 点が必ず減点される。
- g) スケーターはチームとして各コンパルソリーのエレメントを演じる。スケーターは音楽なしでこれらのエレメントを連続して演じる。
- h) 各チーム 2 回演技することが出来る。
- i) ジャッジから最も高い合計得点を集めた時の演技が、スケーターの最終スコアに考慮され、その他の演技は考慮されないものとする。

3) レベルⅡペアフリースタイルプログラム

- a) プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じられなければならない(ボーカルは不可)。ボーカルの使用に対しては 0.2 点が必ず減点される。
- b) 各チームは 2 分±10 秒以内のプログラムを演技する。
- c) これはより上級のペアプログラムである。
- d) エレメントの技はどの順序で演じても良い。
- e) このプログラムは次の 10 のエレメントのうち 8 つを行わなければならない。

- 任意の位置でバッククロス (右回り)
- 任意の位置でバッククロス (左回り)
- ホールディングポジションでレンジ (任意の位置)
- ホールディングポジションでスパイラル (任意の位置)
- バニーホップリフト
- リフトについては男性 1 回転、女性は 1 と 1/2 回転までとする。
- 男性の両腕を完全に伸ばしきってはならない。
- 連続ステップ (形は任意-最低 8 ステップ) ストレートライン、サーキュラー、サーペンタイン
- 2 人並んで同調してジャンプ (ジャンプは任意)
- 2 人同調して片足スピン、3 回転
- 任意の位置で片足ペアスピン、3 回転

- f) 次のエレメントはこのプログラムにおいて実施を禁ずる。
 - 男性の両腕を完全に伸ばしきるオーバーヘッドリフト
 - デススパイラル
 - スロージャンプ

- g) 高いレベルのエレメントを演技した場合は 0.2 点が評価より必ず減点され

る。

c. レベルⅢペア

1) 参加資格：この種目に参加するスケーターは少なくともレベルⅣのシングルスケーターでなければいけないが、レベルⅥを上回るシングルスケーターであるとはならない。両スケーターのシングルレベルは同一でなくてもよいが、シングルレベルⅣ、Ⅴ、Ⅵの範囲でなくてはならない。チームはスペシャルオリンピックスのアスリート男性1名、女性1名または男性2名、女性2名から構成される。

2) レベルⅢコンパルソリーエレメントグループ

- a) スケーターはリンク上のどこからでも演技を開始できる。
- b) スケーターは審判から指示があった時に演技を開始する。
- c) スケーターには音楽なしで最長1分30秒、次のスキルを演技する時間がある。
- d) 求められるスキル：円を描きながらオープンモホーク(左右どちらのホールドポジションで行っても良い)、ストレートラインステップシークエンス、ポジション変更のある片足でのペアスピン、ピボットターン。
- e) これらはどの順序で行っても良いが、他のスキルを追加することはできない。
- f) 他のエレメントを追加した場合、1つにつき0.2点が必ず減点される。
- g) スケーターはチーム(2人)で各コンパルソリーのエレメントを演じなければならない。スケーターはこれらのエレメントを連続した動きとして音楽なしで演じなければならない。
- h) 各チーム2回ずつ演技することが出来る。
- i) 審判から高い合計得点を集めた方の演技をそのスケーターの最終スコアとし、もう一方の演技のスコアは考慮しない。

3) レベルⅢ ペアフリースタイルプログラム

- a) このプログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じられなければならない。(ボーカルは不可) ボーカルの使用に対しては0.2点が必ず減点される。
- b) 各チームは2分30秒±10秒以内のプログラムを演技する。
- c) これはより上級のペアプログラムである。
- d) エレメントのスキルはどの順序で演じてても良い。

- サイドバイサイドジャンプ(ジャンプの種類は任意)
- ポジションを変えながら行うサイドバイサイドスピン1回
- 片足でのペアスピン1回
- ピボットターン1回

- 男性 1 と 1/2 回転、女性は 2 回転までのリフト 1 つ
 - 男性は腕を完全に伸ばしきってはならない。
- コレオグラフィックシークエンス 1 つ (フィールド内での動作)、氷の表面の半分以上を活用しペアの両者で行う。
- バッジ 9-12 のエレメントを 3 つまで
- バッジ 5-8 のエレメントを 3 つまで
- より低いバッジのエレメントは評価されないがエレメントの間をつなげるための使用は認める。

e) 次のエレメントはこのプログラムにおいて実施を禁ずる。

- 男性の両腕を完全に伸ばしきるオーバーヘッドリフト
- デススパイラル
- スロージャンプ

3. アイスダンス

a. レベル I

- 1) 参加資格：レベル I ダンス参加のスケーターは、バッジ 10、またはレベル II に合格していなければならないが、レベル III のシングルススケーターよりレベルが上であってはならない。全アイスダンス種目は、単独で演技するか、男性 1 名と女性 1 名、あるいは男性 2 名、または女性 2 名のいずれかによるスペシャルオリンピックスのアスリート 2 名で構成されるチームで演技する。
- 2) レベル I ファーストパターンダンス
 - a) レベル I のパターンダンスは全て音楽に合わせて演技する。
 - b) ダンス演技は審判に指定されたリンクの端で開始する。
 - c) イントロには最大 7 ステップまで含めることができる
- 3) レベル I 決勝—セカンドパターンダンス
 - a) スケーターは次のシーズンの「ファーストパターンダンス」となるダンスを演技しなければならない。ただし、世界大会の翌年はこれを飛ばしローテーションされる。
- 4) ダンスローテーション
 - a) スケーターはダッチワルツ、キャナスタタンゴ、もしくはリズムブルースを以下のローテーションスケジュールに従って演技しなければならない。

年	ファーストパターンダンス	決勝—セカンドパターンダンス
2013	スイングダンス	フィエスタタンゴ (世界大会)
2014	フィエスタタンゴ (とばす)	
2014	ダッチワルツ	キャナスタタンゴ
2015	キャナスタタンゴ	リズムブルース
2016	リズムブルース	ダッチワルツ (世界大会選考会の年)
2017	リズムブルース	ダッチワルツ (世界大会)
2018	ダッチワルツ (とばす)	
2018	キャナスタタンゴ	リズムブルース

- i. ダッチワルツ—3/4 ワルツ—毎分 138 ビート ; 氷面上を 2 パターン踊るか、リンクを 1 周する。(図 #1 参照)
- ii. リズムブルース—4/4 ブルース—毎分 88 ビート ; 氷面上を 2 パターン踊るか、リンクを 1 周する。(図 #3 参照)
- iii. キャナスタタンゴ—4/4 タンゴ—毎分 104 ビート ; 氷面上を 2 パターン踊るか、リンクを 1 周する。(図 #2 参照)

b. レベル II

- 1) 参加資格 : レベル II のパターンダンスで競技するスケーターは、少なくともレベル III のシングルススケーターでなければならない。全アイスダンス種目は、単独で演技するか、男性 1 名と女性 1 名、あるいは男性 2 名、または女性 2 名のいずれかによるスペシャルオリンピックスのアスリート 2 名で構成されるチームで演技する。
- 2) レベル II ファーストパターンダンス
 - a) レベル II のパターンダンスは全て音楽に合わせて演技する。
 - b) ダンス演技は審判に指定されたリンクの端で開始する。
 - c) イントロには最大 7 ステップまで含めることができる。
- 3) レベル II 決勝—セカンドパターンダンス
 - a) スケーターは次のシーズンの「ファーストパターンダンス」となるダンスを演技しなければならない。ただし、世界大会の翌年はこれを飛ばしローテーションされる。
- 4) ダンスローテーション
 - a) スケーターはスイングダンス、フィエスタタンゴ、チャチャを以下のローテーションでスケジュールに従って演技しなければならない。

年	ファーストパターンダンス	決勝—セカンドパターンダンス
2013	スイングダンス	フィエスタタンゴ (世界大会)
2014	フィエスタタンゴ (とばす)	
2014	チャチャ	スイングダンス
2015	スイングダンス	フィエスタタンゴ
2016	フィエスタタンゴ	チャチャ (世界大会選考会の年)
2017	フィエスタタンゴ	チャチャ (世界大会)
2018	チャチャ (とばす)	
2018	スイングダンス	フィエスタタンゴ

- i. スイングダンス—2/4 スコティッシュ—毎分 96 ビート；氷面上を 2 パターン踊るか、リンクを 2 周する。(図 #4 参照)
- ii. フィエスタタンゴ—4/4 タンゴ—毎分 108 ビート；氷面上を 2 パターン踊るか、リンクを 1 周する。(図 #6 参照)
- iii. チャチャ—4/4 チャチャ—毎分 104 ビート；氷面上を 2 パターンで踊るか、1 回する。(図 #5 参照)

c. レベルⅢ

- 1) 参加資格：レベルⅢのダンスで競技するスケーターは、少なくともレベルⅢのシングルスケーターでなければならない。全アイスダンス種目は、単独で演技するか、男性 1 名と女性 1 名、あるいは男性 2 名、または女性 2 名のいずれかによるスペシャルオリンピックスのアスリート 2 名で構成されるチームで演技する。
- 2) レベルⅢファーストパターンダンス
 - a) レベルⅢのパターンダンスは全て音楽に合わせて演技する。
 - b) ダンス演技は審判に指定されたリンクの端で開始する。
 - c) イントロには最大 7 ステップまで含めることができる
- 3) レベルⅢ決勝—セカンドパターンダンス
 - a) スケーターは次のシーズンの「ファーストパターンダンス」となるダンスを演技しなければならない。ただし、世界大会の翌年はこれをとばしローテーションされる。
- 4) ダンスローテーション
 - a) スケーターはテンフォックス、ウィローワルツ、ヒッコリーホーダウンを以下のローテーションでスケジュールに従って演技しなければならない。

年	ファーストパターンダンス	決勝—セカンドパターンダンス
2013	テンフォックス	ウィローワルツ (世界大会)
2014	ウィローワルツ (とばす)	
2014	ヒッコリーホーダウン	テンフォックス
2015	テンフォックス	ウィローワルツ
2016	ウィローワルツ	ヒッコリーホーダウン (世界大会選考会の年)
2017	ウィローワルツ	ヒッコリーホーダウン (世界大会)
2018	ヒッコリーホーダウン (とばす)	
2018	テンフォックス	ウィローワルツ

- i. テンフォックス—4/4 フォックストロット—毎分 100 ビート；氷面上を 2 パターン踊るか、リンクを 1 周する。(図#8 参照)
- ii. ウィローワルツ—3/4 ワルツ—毎分 138 ビート；氷面上を 2 パターン踊るか、リンクを 1 周する。(図#9 参照)
- iii. ヒッコリーホーダウン—4/4 カントリーウエスタン— (ホーダウン) —毎分 104 ビート；氷面上を 2 パターン踊るか、リンクを 1 周する (図#7 参照)

d. レベルIV

1) レベルIVファーストパターンダンス

- a) レベルIVのパターンダンスは全て音楽に合わせて演技する。
- b) ダンス演技は審判に指定されたリンクの端で開始する。
- c) イントロには最大 7 ステップまで含めることができる

2) レベルVI 決勝—セカンドパターンダンス

- a) スケーターは次のシーズンの「ファーストパターンダンス」として必要なダンスを演技しなければならない。ただし、世界大会の翌年はこれを飛ばしローテーションされる。

3) ダンスローテーション

- a) スケーターはフォーティーンステップ、ヨーロピアンステップ、ヨーロピアンワルツ、フォックストロットを以下のローテーションでスケジュールに従って演技しなければならない。

年	ファーストパターンダンス	決勝—セカンドパターンダンス
2013	ヨーロピアンワルツ	フォックストロット (世界大会)
2014	フォックストロット (とばす)	
2014	フォーティーンステップ	ヨーロピアンワルツ
2015	ヨーロピアンワルツ	フォックストロット
2016	フォックストロット	フォーティーンステップ (世界大会選考 会の年)
2017	フォックストロット	フォーティーンステップ (世界大会)
2018	フォーティーンステップ (とばす)	
2018	ヨーロピアンワルツ	フォックストロット

- i. フォーティーンステップ—4/4、2/4、または 6/8 マーチ—毎分 112 ビート；氷面上を 2 パターン踊るか、リンクを 1 周する。(図#10 参照)
- ii. ヨーロピアンワルツ—3/4 ワルツ—毎分 135 ビート；氷面上を 2 パターン踊るか、リンクを 1 周する。(図#11 参照)
- iii. フォックストロット—4/4 フォックストロット—毎分 100 ビート；氷面上を 2 パターン踊るか、リンクを 1 周する。(図#12 参照)

e. レベルV

- 1) スケーターはシルバードダンス級の課題すべてに合格してはならない。
- 2) ダンスローテーション

2012/7/1—2016/6/30	パソドブレ	&	スターライトワルツ
2016/7/1—2020/6/30	スターライトワルツ	&	キリアン
2020/7/1—2024/6/30	キリアン	&	ブルース

f. レベルVI

- 1) スケーターはゴールドダンス級の課題すべてに合格してはならない。
- 2) ダンスローテーション

2012/7/1—2016/6/30	ヴィニーズワルツ	&	アルゼンチンタンゴ
2016/7/1—2020/6/30	アルゼンチンタンゴ	&	クイックステップ
2020/7/1—2024/6/30	クイックステップ	&	サンバ

セクション F 競技順

1. コンパルソリーエレメントグループとパターンダンス
 - a. 全てのパターン種目の競技順を決めるくじ引きは審判によって行われる。審判がもし現われなかった場合、審判補佐、テクニカル・デリゲート、または運営委員会のメンバーがくじ引きを行う。くじ引きは、可能な限り大会開始前日の遅い時間に行う。

2. 決勝（フリースタイルプログラム、決勝パターン 2 回目）
 - a. 競技順はパターンプログラムの結果により決まる。
 - b. パターンプログラムにより演技順が決定次第すぐに、審判はスケーターを 2 つのグループに分ける。競技者を 2 つのグループに同数に分けられない場合、2 つ目のグループは 1 つ目のグループより、さらに 1 名の競技者を含む必要がある。
 - c. 順位が一番低いアスリートがいるグループから始め、2 人以上の競技者が同順位だった場合、同じグループ内でくじ引きとなる。
 - d. 各グループのスケート順はくじによって決まる。それぞれのアスリート、ペア、チームはパターンプログラムの順位に従い、順番にくじ引きをする。順位が一番高い選手は、同位だった場合を含み、くじ引きを最初にすることができる。同位の選手のくじ引きは個別のくじによって、最初に決める。

セクション G—ユニファイドスポーツ®種目

1. フィギュアスケートのユニファイドスポーツ®トレーニングと競技会では、SO アスリートとユニファイドスポーツ®パートナーの選択の際は、年齢に近い者が望ましく、また同等の競技能力者を選ぶ必要がある。

2. 各ユニファイドスポーツ®チームは、SO アスリート 1 人とユニファイドスポーツ®パートナー 1 人で構成される。

3. コーチはユニファイドスポーツ®のパートナーとして参加してはいけない。

セクション H—得点

1. 総合得点資格
 - a. スケーターが予選と決勝の両方において総合得点資格を得るためには、コンパルソリーとフリースタイルの両方を演じなければならない。
 - b. アイスダンスのアスリートが予選と決勝の両方において総合得点資格を得るためには、パターンとセカンドパターンダンスの両方を演じなければならない。

- c. 技能競技種目に出場した者は、総合得点の資格を得るために指示された各必須技能を最低 1 回は演じなければならない。スケーターには各技能を 2 回演じるチャンスが与えられる。
2. スケーターは公式競技への出場資格を得るために、予選（必要な時に）と決勝の両方で演技しなければならない。
3. 全てのスペシャルオリンピックスフィギュアスケート競技会において、ジャッジの採点は次のように評価される。
- a. シングルスフリースタイル
 - 1) コンパルソリー種目－33.3%
 - 2) フリースタイル種目－66.7%
 - b. ペアスケート
 - 1) コンパルソリー種目－33.3%
 - 2) フリースタイル種目－66.7%
 - c. アイスダンス
 - 1) ファーストパターンダンス－50%
 - 2) セカンドパターンダンス－50%
4. コンパルソリー種目－シングルス
- a. 各ジャッジはコンパルソリーのプログラムに対し 1 つの評価点を与える。
 - b. 減点はエラーの頻度と必須技能の実施漏れを基準とする。
 - c. レベル I コンパルソリーエレメントに関しては、ジャッジはスケーターのキャリング（身のこなし）、スピード、スイズリンクや停止を考慮する。
 - d. レベル II コンパルソリーエレメントに関しては、ジャッジはスケーターのキャリング（身のこなし）、スピード、ターンや停止の正確性を考慮する。
 - e. レベル III コンパルソリーエレメントに関しては、ジャッジはスケーターのキャリング（身のこなし）、形、対称性、滑らかさ、エッジやターンのコントロールを考慮する。
5. 決勝フリースタイル種目－シングルス
- a. 各ジャッジは決勝プログラムに対し 2 つの評価点を与える。
 - 1) 最初の評価点は、スケーターのプログラムのテクニカルメリットに対して与えられる。
 - 2) 2 つ目の評価点は、スケーターのプログラムの構成とスタイルに対して与えられる。

- b. ジャッジと計時はスケーターが演技を開始した時に始まる。
- c. 減点はエラーの頻度と必須技能の実施漏れを基準とする。
- d. 制限時間を 10 秒経過した時、ホイッスルが吹かれる。ジャッジはホイッスルの音を合図にジャッジを停止する。必須エレメントが含まれていれば、プログラムを完全に演じ終えなくても減点が行われない。但し、スケーターはプログラムを演じ終えている、いないに関わらず、ホイッスルが吹かれた 10 秒後、氷上から退場を命じられる。

6. コンパルソリー種目ーペア

- a. 各ジャッジはペアコンパルソリーのプログラムに対し 1 つの評価点を与える。
- b. 減点はエラーの頻度と必須技能の実施漏れを基準とする。
- c. レベル I ペアコンパルソリーエレメントに関しては、ジャッジはペアスケーターのキャリンク（身のこなし）、エッジやターンの明確度、確実性やペアとしての連携度を考慮する。
- d. レベル II ペアコンパルソリーエレメントに関してジャッジは、ペアスケーターのキャリンク（身のこなし）、エッジやターンの明確度、確実性やペアとしての連携度、スピード、そして氷面の活用度を考慮する。

7. フリースタイル種目ーペア

- a. 各ジャッジは決勝プログラムに対し 2 つの評価点を与える。
 - 1) 最初の評価点は、スケーターのプログラムのテクニカルメリットに対して与えられる。
 - 2) 2 つ目の評価点は、スケーターのプログラムの構成とスタイルに対して与えられる。
- b. ジャッジと計時はスケーターが演技を開始した時に始まる。
- c. 減点はエラーの頻度と必須技能の実施漏れを基準とする。
- d. 定められた制限時間内に最小限のエレメントが終了されない場合は減点となる。
- e. 定められた制限時間内にペアスケーターが必須エレメントを演技し終えている場合は減点されない。
- f. 制限時間を 10 秒経過した時、ホイッスルが吹かれる。ジャッジはホイッスルの音を合図にジャッジを停止する。
- g. ペアスケーターはプログラムを演じ終えている、いないに関わらず、ホイッスルが吹かれた 10 秒後、氷上から退場を命じられる。

8. アイスダンス ー ファースト パターンダンス

- a. ファーストパターンダンスに対して各ジャッジは 2 回評価する。
 - 1) 最初の評価点はテクニカルメリットであり、スケーターのステップ、パターン

とタイミングに関する知識と遂行力に対して与えられる。

- 2) 2つ目の評価点は演技に関してであり、スケーターの表現と、滑走の際のダンスのリズムを評価する。

9. アイスダンス – セカンドパターンダンス

- a. セカンドパターンに対して、各ジャッジは2回評価する。
 - 1) 最初の評価点はテクニカルメリットであり、スケーターのステップ、パターンとタイミングに関する知識と遂行力に対して与えられる。
 - 2) 2つ目の評価点はパフォーマンス様式への評価であり、スケーターの表現力とダンスリズムのスタイルを評価して得点が与えられる。

10. 最終スコアと順位—結果の計算

- a. 国際大会とスペシャルオリンピックスの世界大会では、2002年の国際スケート連盟の規約のルール 353 - 357 に記載されている ISU6.0-OBO システムを用いなければならない。
- b. 全国大会や地区大会および技能競技会あるいは技能競技会のみの場合は、結果の決定に以下のシステムを使用してもよい。

各ディビジョンでのアスリートの最終得点と順位は、初戦から最終戦までの得点を加算して決定される。最終順位は各ディビジョンの最高得点から最低得点の順に決定される。最高総合得点を得た者がそのディビジョンにおける優勝者となる。

セクションI—技能（スキル）競技の運営

1. 技能（スキル）競技

(世界大会の種目ではなく、ローカルの競技会とプログラムレベル競技会用)

- a. 11の個人技能競技において、スケーターに各技能を2回演技するチャンスが与えられ、その演技が決勝戦となる。この競技では予選は実施されない。
- b. ジャッジはスケーターの2回の技能演技の各々に対し得点を与える。
- c. ジャッジは、最低点 0.1 から最高点 6.0 までの評価基準を用いて、技能演技を採点する。
- d. スケーターの最終得点と順位を決定するため、2回の演技のうち高いほうの得点を使用し、各技能に対して与えられた高い得点が合計される。
- e. 技能競技種目—スケーターは技能競技 2 に出場するにはバッジ 2、技能競技 3 に出場するためにはバッジ 3 が完全に出来なくてはならない（以降同様）。（バッジプログラムはスペシャルオリンピックスフィギュアスケートスキルブック、または SO 国際本部のホームページ <http://www.specialolympics.org> 上にある新しいスペシャ

ルオリンピックスフィギュアスケートコーチングガイドに記載されている)

1) 技能競技 1

- a) アシスタントなしで前へ 10 歩歩く
- b) その場で 3 回連続スウィズル
- c) 両足を揃えて身長以上の距離をフォア滑走する

2) 技能競技 2

- a) バックウィグルかバック歩行
- b) フォアのスウィズル 5 回で 10ft (約 3m)以上の距離を滑走する
- c) ひざを曲げて身長以上の距離をフォア滑走する

3) 技能競技 3

- a) 両足をそろえて身長以上の距離をバック滑走する
- b) イの字ストップ (左または右)
- c) 片足で身長以上の距離をフォア滑走する (左または右)

4) 技能競技 4

- a) バックのスウィズル 5 回で 10ft (約 3m)以上の距離を滑走する
- b) 両足フォア滑走で左右にカーブしながらリンクを横切る
- c) その場でフォアからバックへの両足ターン

5) 技能競技 5

- a) フォア滑走から両足ターンをしてバック滑走する
- b) 片足で身長以上の距離をバック滑走する (左と右)
- c) フォアのピボットターン

6) 技能競技 6

- a) バックストロークでリンクを横切る
- b) バック滑走から両足ターンをしてフォア滑走する
- c) T字ストップ (左または右)

7) 技能競技 7

- a) 5 回連続フォアクロス (左回りと右回り)
- b) アウトエッジでフォア滑走する (左と右)
- c) 両足スピン

8) 技能競技 8

- a) フォアアウトスリーターン (左と右)
- b) インエッジでフォア滑走する (左と右)
- c) バニーホップ

9) 技能競技 9

- a) フォアインスリーターン (左と右)
- b) 5回連続バッククロス (左回りと右回り)
- c) フォアのスパイラル (身長の3倍くらいの距離)

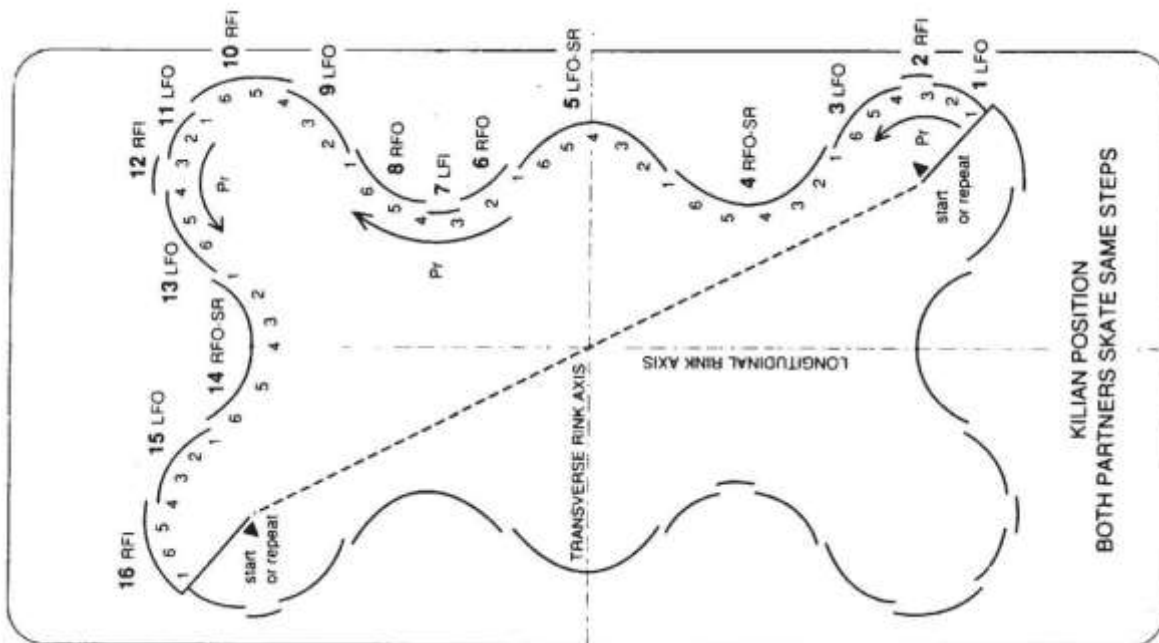
10) 技能競技 10

- a) フォアアウトセミサークル (最低各足2回)
- b) フォアインセミサークル (最低各足2回)
- c) フォアインサイドモホーク (左と右)
- d) アウトエッジでバック滑走する (左と右)

11) 技能競技 11

- a) スリージャンプ
- b) 片足スピン (3回転以上)
- c) フォアクロス→インサイドモホーク→バッククロス (左回りと右回り)
- d) 技能競技 8~11 から 3つの動作を組み合わせる

図#1—ダッチワルツ



図#2—キャナスタタンゴ

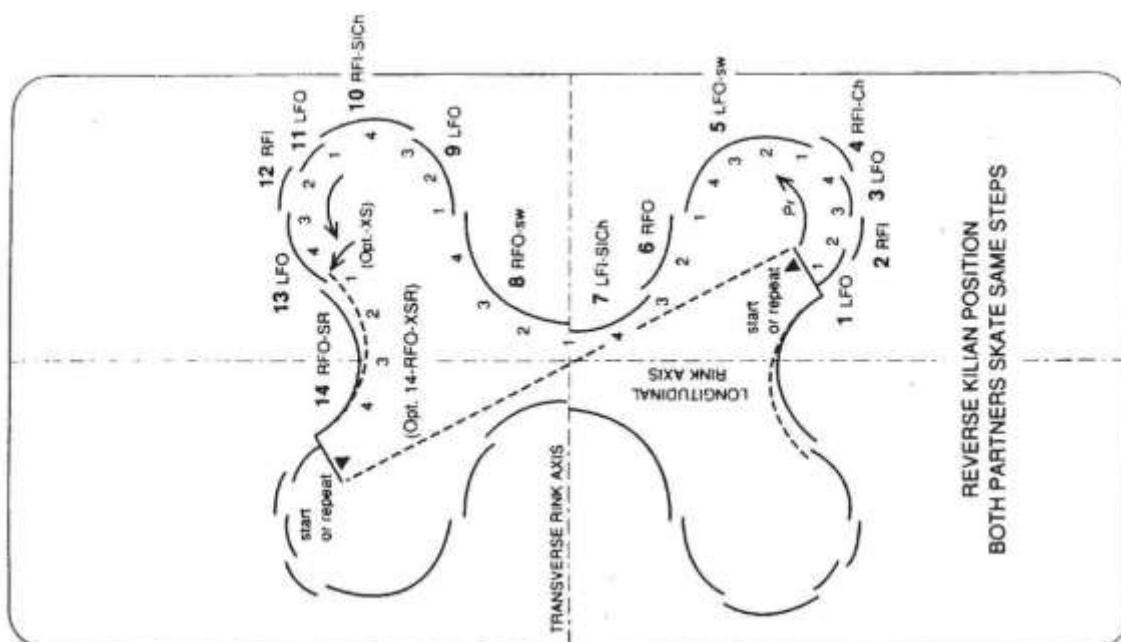


図 #3—リズムブルース

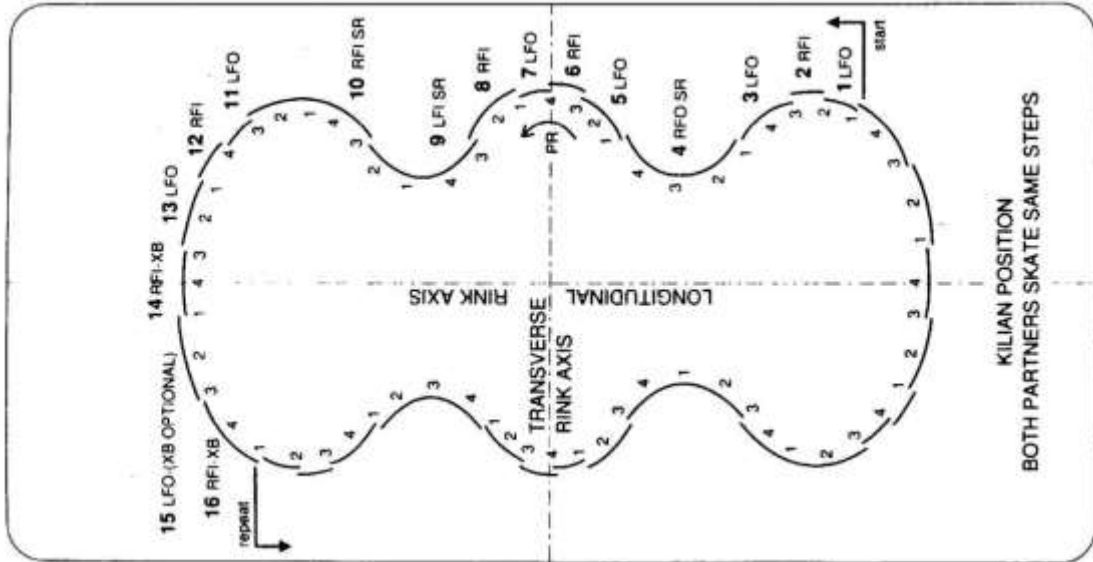


図 #4—スイングダンス

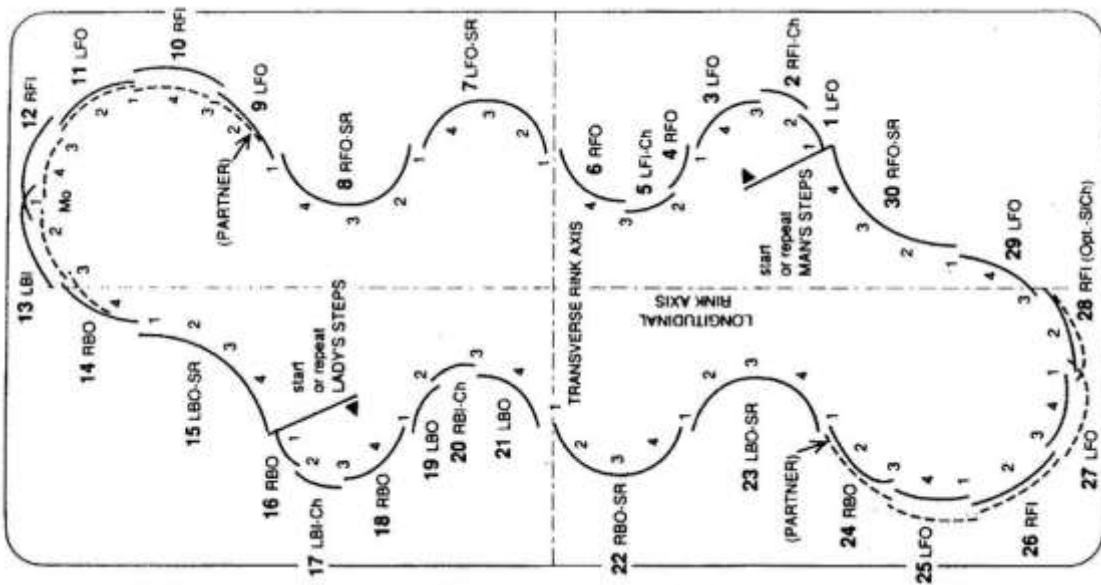


図 #5—チャチャ

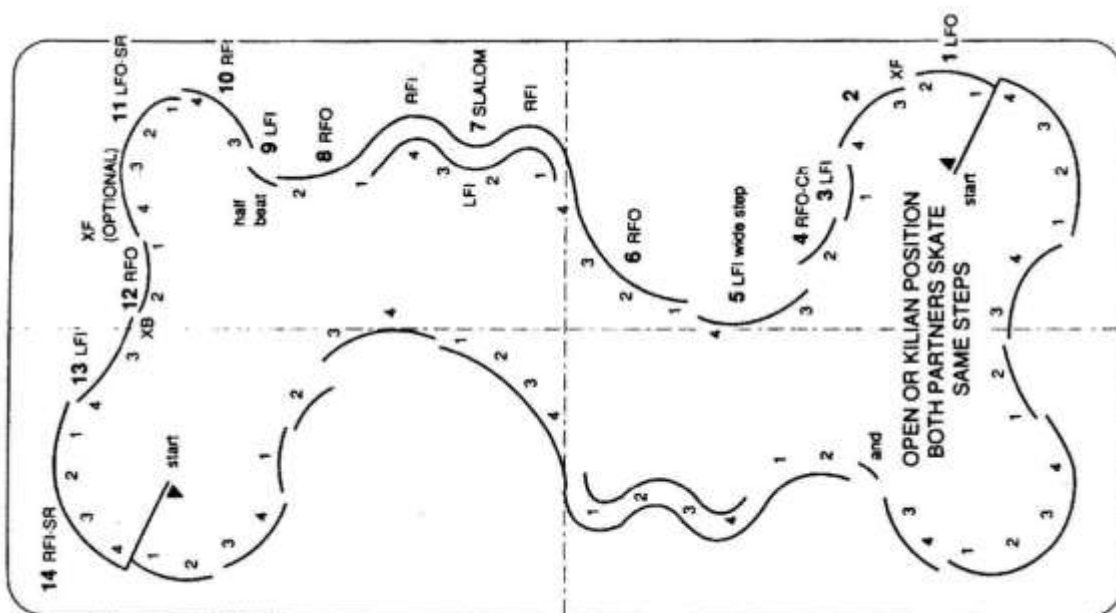


図 #6—フィエスタタンゴ

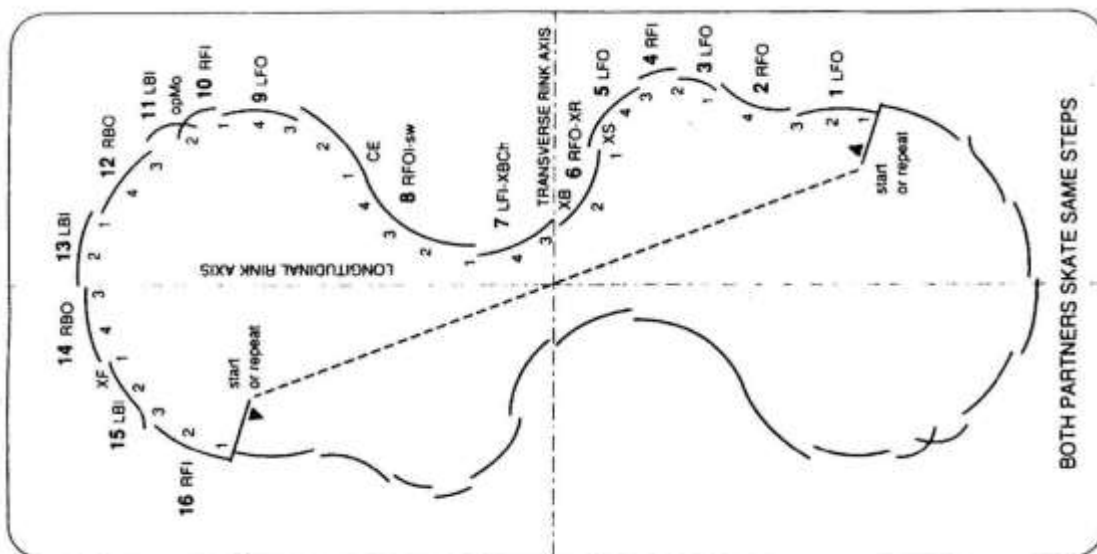


図 #7—ヒッコリーホーダウン

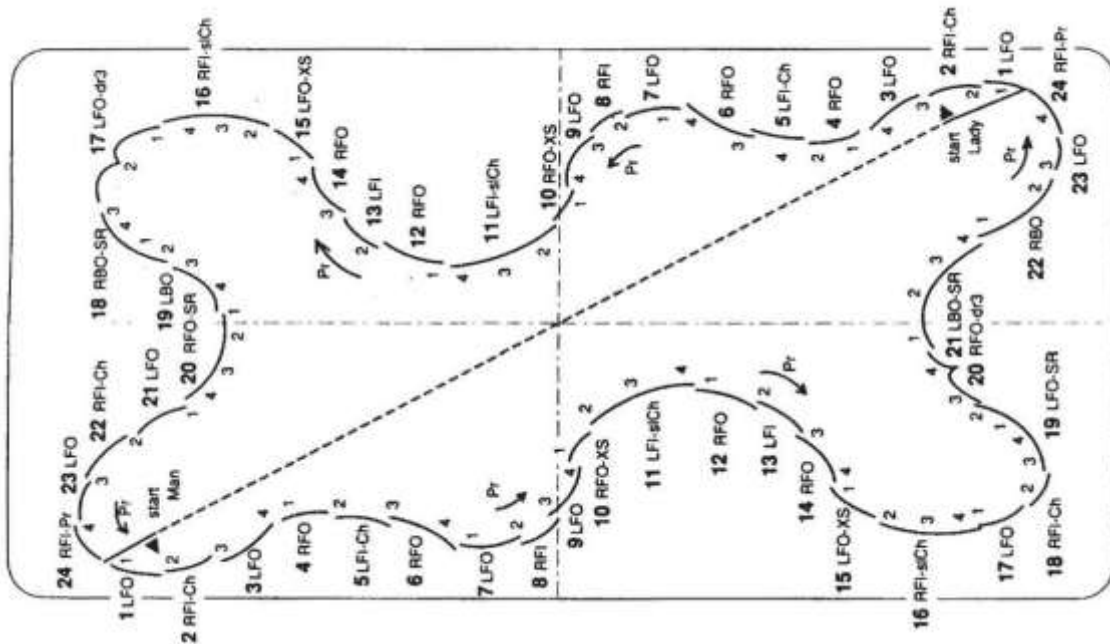


図 #8—テンフォックス

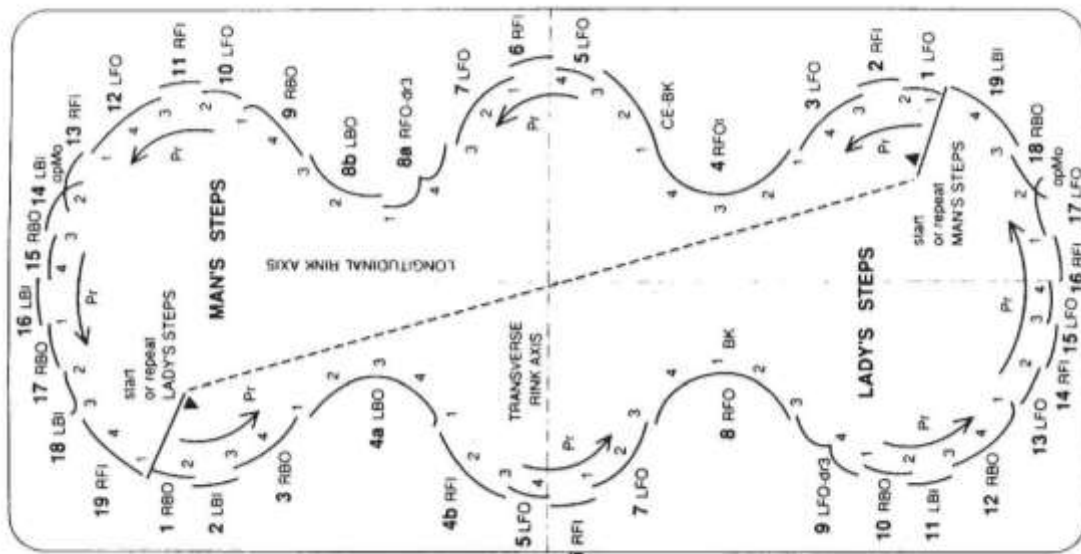


図 #9—ウィローワルツ

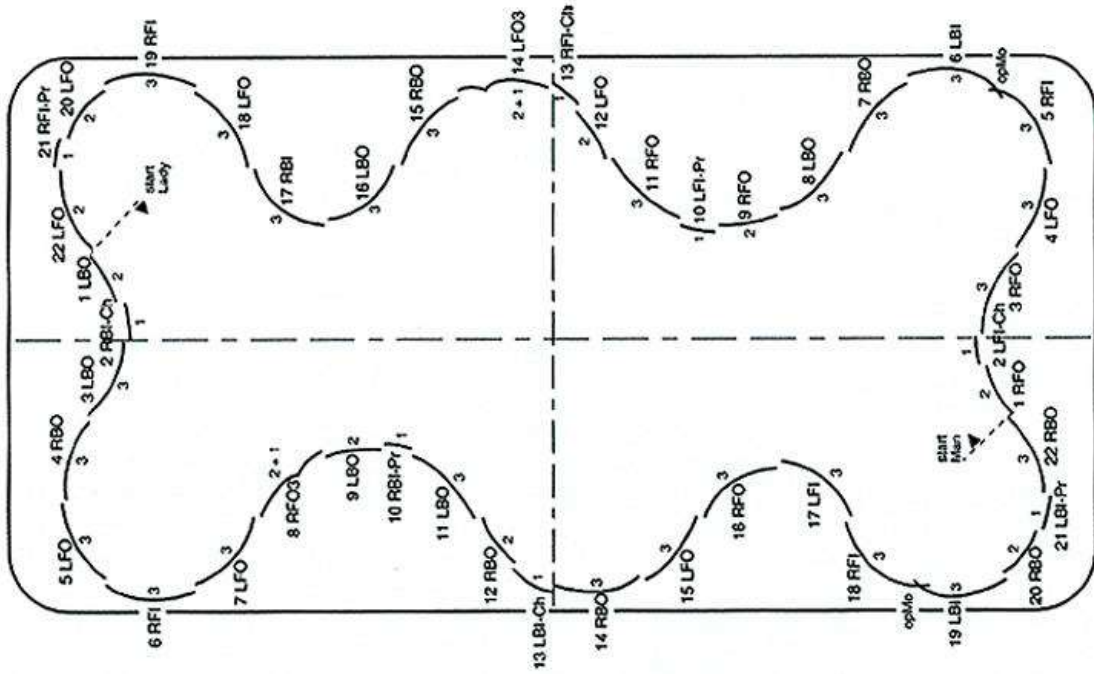


図 #10—フォーティーンステップ

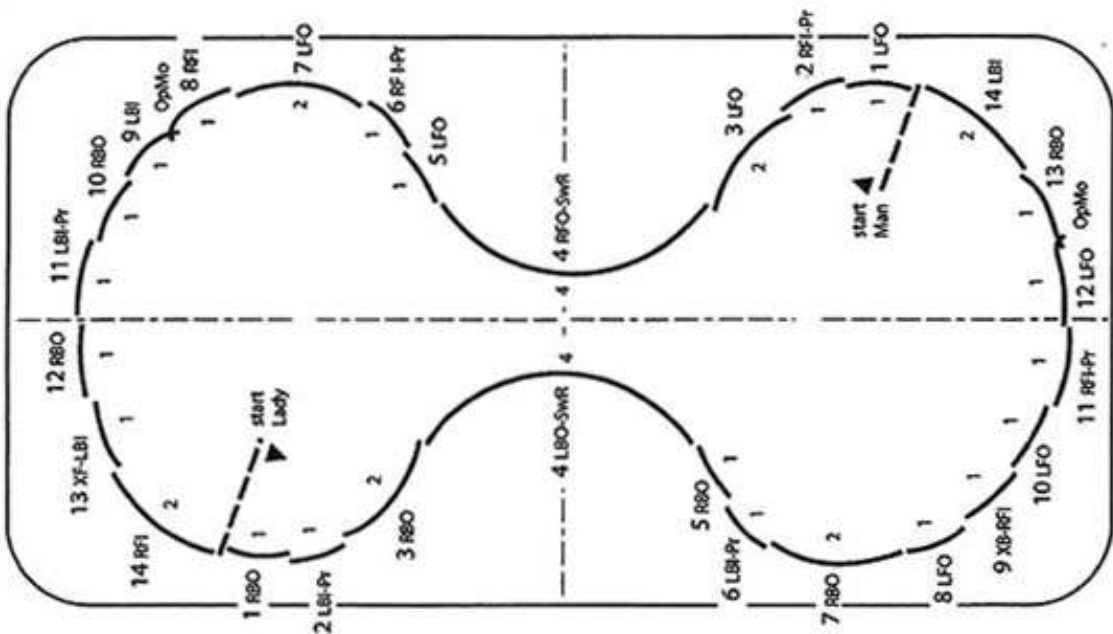


図 #11—ヨーロピアンワルツ

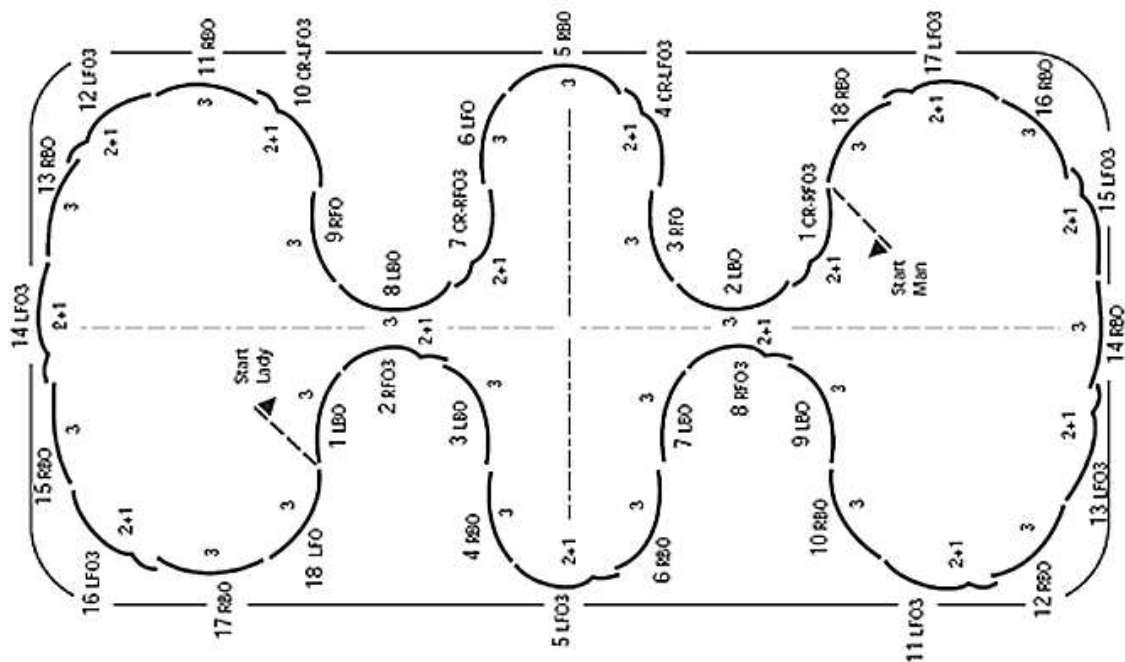
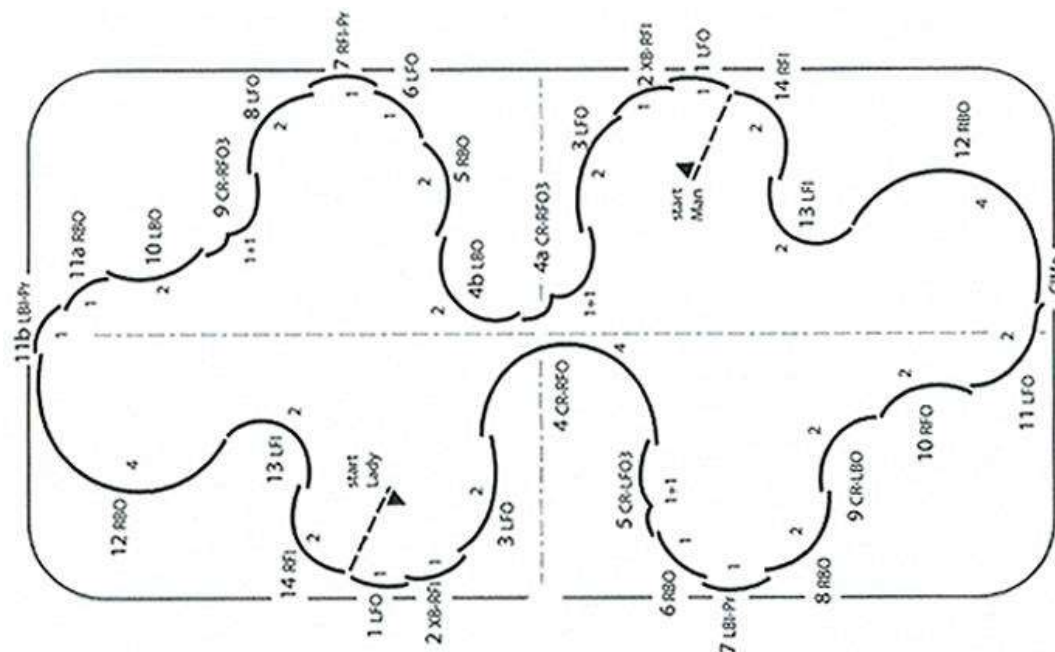


図 #12-フォックストロット



<スペシャルオリンピックスのスポーツプログラムを実施するに当たっての留意点>

スペシャルオリンピックスの正式なスポーツプログラムとして活動する場合には、事前に最寄りの地区組織事務局、又はスペシャルオリンピックス日本事務局にご連絡ください。